

新たなウナギ産業の創出

(予算区分 県単(新成長) 研究期間 平成 25～27 年度)
担当：水産技術研究所 浜名湖分場・開発加工科・富士養鰻場
研究リーダー 青島 秀治(浜名湖分場)

【研究の背景とねらい】

静岡産の養殖ウナギは全国的に有名なブランドですが、ウナギの養殖に必要なシラスウナギは全て天然種苗に依存しているのが現状です。そのため、平成 21 年度から 4 年連続したシラスウナギの不漁は、養鰻業者だけでなく、ウナギ加工業者や一般消費者をも巻き込み、大きな社会問題となりました。そこで、ウナギに関わる産業の安定を目指して、新たなニーズを創出するための異種ウナギ養殖技術の開発を行うと共に、ニホンウナギ資源の回復のため、浜名湖や河川に生息するニホンウナギの資源状況等を調査します。

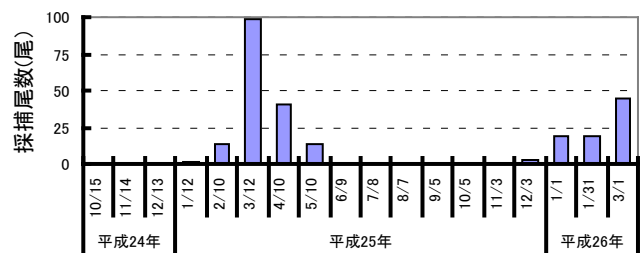
【これまでに得られた成果】

(平成 25 年度の成果)

- ・モザンビカ種ウナギやアメリカウナギの初期段階の成長は、ニホンウナギと同様の方法で飼育した場合、ニホンウナギよりも遅くなることが分かりました。
- ・蒲焼などの官能評価の結果、バイカラ種ウナギやオオウナギは、ニホンウナギと遜色の無い評価でした。また、バイカラ種ウナギの脂肪は、皮あるいは皮下に多く分布していることが分かりました。
- ・平成 25 年の浜名湖におけるシラスウナギの来遊時期は、1～5 月であり、来遊ピークは 3 月でした。
- ・浜名湖に生息する天然ウナギは、雌では 9 月以降、雄では 10 月以降に産卵のための降海の準備(銀化)が進行していました。しかし、雌については、体重 180 g 未満では銀化の進行は確認できませんでした。
- ・河川における生息状況調査の結果、人工工作物(落差工、護床工)もウナギの生息場所として機能していることが明らかになりました。



バイカラ種ウナギ



浜名湖(浜松市北区三ヶ日町)における
シラスウナギ通年採捕試験結果
(横軸の日には新月の日を示す)

【期待される成果】

異種ウナギの養殖方法を確立すると共に、これに適した加工方法を開発することにより、異種ウナギを用いた新たなウナギのマーケットを作り出すことができます。また、ニホンウナギの資源状況については、シラスウナギの来遊状況調査、浜名湖での漁獲物調査、河川における生息状況調査によりその実態が明らかとなり、資源保護策に反映させることができます。すなわち、異種ウナギにより新たなウナギ産業を創出すると共に、ニホンウナギの資源管理に向けた取組により「静岡県産ウナギ」ブランドを維持していくことが可能となります。

【今後の計画】

異種ウナギの養殖方法の確立及びこれに適した加工技術の開発により、異種ウナギの普及を図っていきます。また、ニホンウナギの資源実態や、その生息に適した環境を明らかにしていきます。

(作成 平成 26 年 4 月)